

ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル4F
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp
年間購読料 3,000円 (送料込み) 振替・00190-2-76501



THE JOURNALIST

2013.5.25

4・28歴史の偽造を許さない

「主権回復の日」告発集会

米軍居残り特権維持

当時の大手紙、沖縄に触れず

「4・28は『主権回復の日』か!? その偽りを告発する集会」が文京シビックセンターのシルバードホールで当日午後1時

30分から開かれた。子どもと教科書全国ネットワークや日本ジャーナリスト会議などが実行委員会をつくり開催。

「沖繩、奄美、小笠原は米軍が、千島は旧ソ連軍が占領を継続した。日本本土では米軍以外の占領軍は撤収したが、米軍はそのまま居残り、在日米軍として残った。この在日米軍は講和条約とセツトで締結した旧安保条約に基づき、国内内乱時に

始末にメドがついたのかといえ、こちらもまったく不十分だ。

「講和条約が不完全なため領土問題は棚上げ、日本人自らによる戦争責任の追及はされず、旧日本軍による植民地・占領地での被害者や国内民間人に対する補償も未済です。そして国際社会での

でも4・28は「主権回復の日」とは言えないのである。つまり安倍政権は国民をだましているわけだ。

「その日の大手新聞の紙面に沖繩は一言も出ていません。一方、沖繩の新聞は、たとえば琉球新報が



講演する山田朗・明治大学教授

まず明治大学の山田朗教授（日本近現代史）が『主権回復の日』の虚構性と題して講演を行った。

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

知花昌一さん迎え 福岡でも反対集会



4・28は「第5の琉球処分」と語る知花昌一さん

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

橋下市長の「慰安婦」発言

歴史、人権への無理解を露呈

橋下徹大阪市長の、慰安婦制度は必要だったなどの発言に対し、批判が広がっている。

この発言に対し日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークをはじめ、

「慰安婦」制度の強制性を否認する橋下発言の論旨は掲示板、ブログなどで

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

橋下徹市長は13日の記者会見で「精神的にも高ぶっている猛者集団」の休息のためには、「慰安婦制度は必要」と語った

「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター（パウラック）、アジア女性資料センター、

「慰安婦」制度の強制性を否認する橋下発言の論旨は掲示板、ブログなどで

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている

「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されている



江草晋二

ネット選挙解禁 「べからず法」に風穴

選挙の自由実現、焦眉の課題

4月19日、インターネットを利用した選挙運動(ネット選挙)を解禁する、公職選挙法(公選法)改正が、全会一致で成立した。解禁は夏の参院選から適用される。

解禁は、メールを除くウェブ上の選挙運動と、メールによる選挙運動に大別されている。

ウェブ上の選挙運動(ツイッターやフェイスブック等のSNSを含む)は、市民を含めて解禁され、だれでも、特定の政党や候補者への投票を求める文書や映像・静止画像(選挙運動文書)を、自由に掲載することができる。メールを使った選挙運

動は、政党・確認団体と候補者だけに解禁され、一定の要件を満たす受信者に対して、選挙運動文書を送信することができ

る。市民へのメール解禁は先送りされたが、附則で、参院選後「解禁について適切な措置が講ぜられるものとする」とされた。

「べからず法」に風穴 公選法によって自由であるべき選挙運動が規制され、国民の政治参加が大きく制約されてきた。選挙運動文書を頒布(不特定または多数への配布)することは、例外的に認められる「選挙文書」や「候補者ビラ」などを除いて全面的に禁止

され、法定外文書の頒布は犯罪とされている。これでは、支持する政党や候補者への投票を、市民が呼びかけることはまったくできない。こうしたもので、ウェブ上に限るとはいえ、市民の文書活動の自由が実現したことは、きわめて重要な意味をもっている。選挙の自由を奪いとり、主権者国民を「観客」にしてきた「べからず選挙法」に、風穴があいたことを意味しているからである。

選挙の自由の実現へ 解禁によって、「原則自由のネット上」と「原則禁止のネット外」で、発信できるメッセージや

アクセスできる情報に隔絶した落差が生まれる。放置すれば、ネットを利用できない高齢者や社会的弱者の政治参加を、かえって疎外することにもなるだろう。

ウェブ上にあふれている選挙運動の映像や文書を印刷して掲示したり配ったりと犯罪。メールで「支援のお願い」が送信できる候補者が、同じ文書をファックスや郵送で送っても犯罪……こんな規制に合理性はまったくない。

諸外国に類例を見ない「べからず選挙法」が維持されてきたのは、解禁による「競争の激化」や「経費の拡大」「虚偽情報の氾濫」が口実だった。これらは、ネット選挙解禁をめぐっても指摘され

た懸念だった。ネット選挙が解禁されたいま、「ネット外の禁止」をそのまま続ける理由はどこにもない。ネット外を含めた選挙の自由の実現は、焦眉の課題である。

田中隆(自由法曹団)

リレー時評



J.C.J代表委員 白垣詔男

憲法改悪に向けて自民、日本維新、みんなのどの政党の動きが激しくなっている。そういう情勢もあって今年の憲法記念日には、「護憲派」「改憲派」が開いた集会に、これまでにない参加者を数えた。

大江健三郎さんから9人が「九条の会」を発足させた2004年6月10日から今年まで、全国では年々、「九条の会」

9月9日を「9条の日」にしよう

た。

その意味では、「安倍ブラック政権」が「96条改憲」を言い出したことは、全国の「九条の会」の活性化につながっているとも言える。

私が事務局員として活動している「九条の会福岡県連絡会」でも、今年の「5・3憲法記念日

講演「東アジア新時代の憲法平和主義」のほか、九州交響楽団員の弦楽四重奏の音色を聞き、心が豊かになった集会だった。

参加者の中には、いつも見ない顔もあり、主催者としては嬉しい限り

だった。一方、福岡市内で、これも恒例の日本会議の「憲法集会」にも、これまでになく多数の550人が集い、こちらも盛況だったようだ。

「天皇制を廃止したいから私は改憲論者」と公言している九州大学大学院教授・出水薫さんの

福岡県連絡会」は、結成した05年(3月)から毎年、憲法記念日、日本国憲法公布の日(文化の日)の2回、大掛かりな集会を開くほか、06年から9月9日を「9条の日」と決め、午前9時9分に福岡県内の寺院や

キリスト教会などにおいて、これ恒例の日本会議の「憲法集会」にも、これまでになく多数の550人が集い、こちらも盛況だったようだ。

「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

る。そこで、9月9日を「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

る。そこで、9月9日を「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

放送フォーラム

TPPの本質に迫る

日米のアジア経済支配の企て



聴衆を前に語る萩原伸次郎・横浜国大名誉教授

「TPPは米と組んでアジアでの経済支配を企てる日本の大企業の志向でもある」。放送を語る会の放送フォーラムで、講師の横浜国大名誉教授・萩原伸次郎氏はこう明快に指摘した。

今年3月、安倍首相はTPP交渉への参加を正式表明したが、事前交渉ですら重要な内容は国民には知らされず、また、交渉参加後発国として差別されるなどの問題点が露呈している。

4月27日に東京で開かれた放送を語る会のフォーラムで、萩原氏は、「TPPとは、いったい何か」と題して講演し、この協定は国民の利益より

日、平和の日です」と書いていこうと考えていたチラシも配っている。

「九条の会全国交流集会」で訴えたり、その他機会をみつけてアピールしたりして「9条の日」を国民すべてに認知してもらえよう訴えていきたい。国民の祝日になれば、こんな素晴らしいことはない。

運動は楽しく、目標に向かって進むことで多くの力を集める。「世界の宝・日本国憲法」の良さを広め、憲法の改悪をさせないために、参院選をにらんで行動を加速する決意を固めている。

「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

る。そこで、9月9日を「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

る。そこで、9月9日を「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

る。そこで、9月9日を「9条の日」にするために、全国の仲間と呼び掛

日米のグローバル企業の利益を優先する戦略だと明確に定義つけた。

その上で、安倍・オバマ会談の成果だと喧伝されているコメなど農産5品目、「聖域」について、TPPは全の関税の撤廃が最終目的で、遅かれ早かれ、「聖域」は消滅せざるを得ないと述べ、安易な期待を厳しく戒めた。

さらに米の医療資本が狙っている日本の国民皆保険への介入で、自由診療の拡大が進んで力ネ優先の医療がまかり通り、国民を守るための現在の健保制度が根底から崩壊する危険性があると警告。また、日本の経団連などがTPPに積極的なのは、米資本と組んで自

らも積極的にアジアに進出し、様々な力を背景に相手国から不当に利益を引き出すためだと指摘した。

フォーラムでは講演に先立ち、放送を語る会が4月にまとめた在京キー局6局の、TPP報道についての詳細なモニター結果が報告された。報告では、各局が政府自民党とJ.Aとの「聖域」を巡る駆け引きを中心に矮小化して伝え、独自取材を交えて問題の本質に迫る調査報道を怠ったなどと厳しく指摘している。

参加者からはTPPを巡る動きが理解できたなどの感想が多く寄せられた。

石井長世(放送を語る会)

マウスの社会探訪

ソーシャルレンディングに社会性を

@SNSはネットを通じての個人同士の関係構築であるが、ソーシャルレンディングはネットを通しての個人間の金銭貸借である。P2P金融とも呼ばれている。ネットワークを広げるために運営会社がセンターとなり、貸し手、借り手を募集する。リスク分散のため複数の貸し手が融資する。運営会社は融資と資金の回収を行う。出資者の情報は一切伏せられる。
@この融資方法には利益の薄い社会事業や、個人の教育や生活向上に資するという社会的融資も意図していたようだ。結局貸し倒れのリスクを避けるため、企業への融資、それも担保付きとか保証付きとか安全性の高い融資条件が優先されるようになった。そのため、借り手は銀行より安く借りることができ、貸し手は金利が低い銀行預金より有利で、株式投資やFXのようなハイリスクを避けた、ほどほどの資産運用が期待できるメリットが強調されている。この融資方法の社会的役割をもっと見直してほしいものだ。

(MY)

J.C.J神奈川支部

総会と講演会

神奈川支部では6月1日(土)に支部総会と講演会を、JR根岸線桜木町駅前横浜市健康福祉総合センター9階904号合センター9階904号会議室で開く。

午後1時30分から2時30分まで支部総会。続いて講演会を行う。

講師 大野晃氏(スポーツジャーナリスト) 参加費 500円 問い合わせ 伊東090-2753-8012

首相官邸で働いて初めてわかったこと

下村健一

一元テレビキャスターが語る首相官邸の現場

再稼働反対で脱原発アモが盛り上がった昨年を思い出しつつ本書を読む。民主党が政権を担った何が変わったのか。それは「おまかせ民主主義」からの脱却の一步、国民の政治参加を促す底流が、つづられたことにある。

この課題は今も変わらなと再確認した。「国家中枢に突然飛び込んだ元テレビキャスターの現場報告」とあるように、ジャーナリストである著者が、菅・野田政権で内閣広報審議官として走り回った2年間を、当

情報共有する、「当事者メディア」にしていく実践である。特に「2030年代に原発ゼロを可能にする」として「革新的エネルギー・環境戦略」の決定過程に関わり、原発維持派の官僚らとの闘い方など

つたと理解できる。本書を読み、昨年亡くなった弁護士の日隅一雄氏が「行政を市民の手に取り戻すための答え」はイギリスの公職任命コミ

とも興味深い。この政策決定は、国民の意見聴取、パブリックコメントなどが注目されたが、賛成派・反対派と色分けする「対立」ではなく、多様な国民的議論の中で行ったことが具体的に書かれていると感したからだ。（朝日新書860円）鈴木賀津彦（東京新聞）

書評

本・BOOK・ほん

（価格は税別です）

原真 テレビの履歴書 地デジ化とは何だったのか

関係者への綿密な取材でたどる テレビ放送60年の歩み



記者・原真（共同通信）が、テレビはどのように生まれ、どのように変化し、なぜデジタル化したのか、これからどうなるのかを、関係者の証言で

る。世界の覇権に失敗した経緯、BSアナログからの方針転換にまつわるドラマ、世界の流れに乗り遅れまいと動いた行政、高画質以外のデジタルメリットが生かされない理由等が解明される。

第3章、多チャンネルの台頭、第4章ネットとの競う未来は現在のテレビの状況を浮き彫りにした記述として読み応えがある。デジタル化のメリットである多チャンネル化が、番組の内容や視聴形態に変化をもたらしつつある。そしてネットとの競い合いの中で番組が変化しつつある。

デジタル化がメディアの4番目の革命になるのかどうか、放送現場の新たな努力が問われるだろう。（リベルタ出版1500円）

今年がテレビが誕生して60年という節目だ。昨年3月末、東北4県のアナログテレビが終了し、テレビはすべてデジタル化した。本書は長い間テレビ放送を見続け、取材し続けてきた敏腕の新聞関係者の証言を積み重ね

第1章の日本におけるテレビ黎明期の記述には、これまであまり知られていなかった事実も発掘、テレビ研究を先導した川原田正太郎のエピソードが楽しく読める。第2章デジタルへの道では政府や業界がどのような思惑で動いたか、関係者の証言を積み重ね

瀬長亀次郎 民族の悲劇 沖縄県民の抵抗

なぜ4・28を「屈辱の日」と呼ぶか、米軍の圧制と闘う沖縄県民の叫び



1952年のこの日に発効したサンフランシスコ講和条約は、平和憲法下の本土、それを支える軍事要塞・沖縄という構図を確定させた。

本書の初版は59年。暗黒の50年代に沖縄で何が起きたか、なぜ4・28を「屈辱の日」と呼ぶのか、事実を知らせるべく緊急再刊された。

著者の瀬長亀次郎は米軍の圧制と闘った不屈の政治家であり、ユーモアのあるおじさんだった。沖縄人民党委員長、後に共産党に合流して副委員長を務めたが、ファンは党の支持者にとどまらな

い。没後も「亀次郎にか投票しない」というお年寄りがいるほどだ。現場で住民と共に体を張っているから、描写は克明だ。田んぼを接収して基地にする米兵は、「餓死するだろう」と聞くと「一部であろう」と聞く耳持たず。農民は「一部でも死んでいかならぬ」と抗議。だが正論も田んぼも、米軍の銃剣とブルドーザーに踏みつけられてしまう。

著者は、多くの読者から「自由と民主主義を唱えるアメリカが、あのようなむごい、非道な仕打ちをやっているはずがない」と、お叱りの手紙を受け取った事実を明かしている。

4月28日、東京の「主権回復の日」式典で、安倍晋三首相らは「天皇陛下を三唱し、沖縄県民の支持者にとどまらな

い。没後も「亀次郎にか投票しない」というお年寄りがいるほどだ。現場で住民と共に体を張っているから、描写は克明だ。田んぼを接収して基地にする米兵は、「餓死するだろう」と聞くと「一部であろう」と聞く耳持たず。農民は「一部でも死んでいかならぬ」と抗議。だが正論も田んぼも、米軍の銃剣とブルドーザーに踏みつけられてしまう。

短歌

現代の窓

評小石雅夫

高野 公彦（「コスモス」）

原発事故以後のいわき市寂しけれ空、空でなく海、海でなし 短歌研究5月号「無祀の鬼」

イタリヤ人エンリコ・フェルミ死にしかと原子炉という悪魔残りぬ 同

いわき市に一夜泊れば波音す幸多き海、わがはひの海 同

遠き陸前の海をおもふ。 同

遺体まだ上からぬ人は（無祀の鬼）になりて三陸の闇さまよふや 同

原発事故は、その後時間が経つにつれて、その深刻さはさまざまなたちをとってじわっと隈なく浸透し、どこまでも広がりを見せていきます。

物事への見方感じ方をも、それ以前と以後ではおそろしく異なったものにさせていきます。

一首目は、同じ街であり、その同じ空であり海であったものが、いまやそれまでとは同じ空とも海とも違った、目には見えない毒を含んだものに変容した親しさを失ってしまったものなのです。

二首目は、イタリヤ・ローマ出身の物理学者。放射性元素発見で1938年にノーベル賞を受賞し、そのままアメリカへ亡命。原爆開発のマンハッタン計画でも中心的役割を果たします。さらにデトロイト郊外のエンリコ・フェルミ原子力発電所内に高速増殖試験炉を建設。その5年後1996年10月5日に最初の炉心溶融事故が発生させました。それを「悪魔」と明確に表現しています。

三首目は、被災後のいわき市を訪れたとき宿で耳に届く波音です。本来、海は人びとに多くの幸を恵んでくれるはずのものです。その海がいまや放射能汚染水の流入で災いの海と化しています。

四首目は、いまだに海にさらわれて行方も知れない二千七百人もの人びとの、弔われることのないままに、無念の鬼となつて迷う魂を思う。

淡々と感傷を突き放した表現が、かえって読む者に刺さってきます。

（「新日本歌人」編集長）

中村梅之助

前進座80年

尊くも悲しく行かん前進座 劇団代表が綴る80年の歩み



劇人たちとともに、新作を上演するという人々たちによるものであった。社会的な時代背景とともに、8歳で初舞台など、育っていく過程が、飾りのない叙述で展開されている。

「戦時下の前進座」では信州への疎開や、中学を中退して劇団に入座し、『元祿忠臣蔵』の地方巡演に出て修業に励む様子など興味深い。

そして「戦争が終わった」では、帝劇出演や自主製作映画などの活躍ぶりが楽しい。劇団経営の大改革などの問題も明らかにされている。そして、父・甕右衛門の死去に至る。

第二部では、前進座劇場が誕生した82年から2012年の閉鎖に至る30年間が、年度ごとにまとめられている。

上演演目の選択、観客動員数など、責任のある所在が克明に綴られている。そして、名跡の襲名問題や中村梅雀の退座届なども論じられている。

第一部は、「私が生まれたのは、前進座が創立される一年前、東京・台東区池之端です」という書き出しで始まる。前進座の創立そのものが、旧来の歌舞伎の上演だけでなく、革新的な新

（朝日新聞出版840円）鈴木太郎（演劇ライター）

映画の鏡

暗闇の先には、きつと光がある

『はじまりのみち』

木下恵介監督の映画への熱い思い



と世間話になる。映画など見ないと思っていた若者が「あの『陸軍』の母親には涙が出た」と聞き、味方を得たと感動を覚える。病床の母が恵介を枕元に呼び、1枚の便箋を渡す。その中には「自分の希望で入った映画界、お前の映画を家族はどれだけ喜んだか知らない。また木下恵介の映画を観たい」と書いてあった。木下は当局への怒りで会社を辞めてきたが、母がこれほど自分の映画を待ち望んでくれたのかと、胸をつかれ、泣き伏すのだった。

これは木下恵介監督の生誕100年を記念した作品である。昭和19年に戦意高揚のために作られた映画『陸軍』で、田中絹代演ずる母親が息子を心配する姿が厭厭的だと

軍からいらまれ、次の製作を中止させられる。木下は松竹に辞表を提出、故郷の浜松へ向かう。戦局は悪化の一途をたどり、木下一家は疎開するが、病身の母をリアルに

1で、兄と便利屋の3人で60キロ離れた疎開先まで山越えすることに。夜中に出発し、17時間歩き通し、激しい雨の中、リアカーを引く3人。ようやく見つけた宿屋で母の顔の汚れをぬぐう息子の恵介。印象に残るシーンだ。

散歩に出た小川の土手で、恵介は便利屋の若者

を枕元に呼び、1枚の便箋を渡す。その中には「自分の希望で入った映画界、お前の映画を家族はどれだけ喜んだか知らない。また木下恵介の映画を観たい」と書いてあった。木下は当局への怒りで会社を辞めてきたが、母がこれほど自分の映画を待ち望んでくれたのかと、胸をつかれ、泣き伏すのだった。

今年憲法記念日を中心に、新聞はこれまで以上に憲法問題に力を入れた。特に、自民党を中心にした「96条改憲」についての記事が多かった。しかし、その後、憲法学者らの「96条改憲反対」の声が大きくなったのと、世論調査でも「96条改憲反対」が多かったのに加え、連立相手の公明党の反発が強かった

見出しの力を再認識させられる

3日付朝刊各紙の「憲法問題社説」を読んで、「96条の改正に反対する」とスバリ見出しでうたった毎日に感心した。見出しの力を再認識させられた。朝日社説は「96条改正に反対」を明確にしているものの「憲法を考へる／変えていいこと、ならぬこと」と、な

13日になって毎日朝刊3面の山田孝男さんのコラム「風知草」が「最近の『96条』攻防録」と題して、この間の安倍・自民党の「96条改憲後退」の実相を書いて経緯がよく分かる。山田さんの立場は「中身（憲法の具体的な条文）の合意を棚上げして、残り7人は「9条を大切にせよ」と、「9条は世界の宝」を真付けた回答だった。日米仏など9カ国人のうちフィリピン、アフガニスタンの2人が「改正賛成、軍隊を持ちたい」とする。見出しには「憲法と『9条改正』を取り上げ、「武力行使偏重は危うい」との見出しで、結論は「今、9条を急いで改正する必要はない」とする。見出しには

国会で安倍さんが「憲法の人権条項」も知らぬことも露見した。しかも「憲法違反の衆議院定数」のまま当選した衆議院議員として「改憲」を言う資格があるのか、新聞は冷徹に指摘すべきだ。白垣昭男

新聞

月間マスコミ批評

7月の参院選を前に憲法96条改定の論議が急浮上。各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

7月の参院選を前に憲法96条改定の論議が急浮上。各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

7月の参院選を前に憲法96条改定の論議が急浮上。各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

7月の参院選を前に憲法96条改定の論議が急浮上。各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

7月の参院選を前に憲法96条改定の論議が急浮上。各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

放送

ベアテさんと橋下発言の落差

この中で5月4日のTBS「みのもんたのサリ満遍なく聞くに終わっ

戦前亡命ユタヤ人音楽家の長女として日本で暮らす、米国留学を経て終戦の年にGHQ要員として来日、憲法草案作成に携わったベアテ・シロタ・

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦勞が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に



気象台



プロフィール

清武 英利(きよたけひでとし) 1950年10月12日、宮崎県生まれ。立命館大学経済学部卒業。75年読売新聞社入社。東京本社社会部時代、第一勧業銀行(現在のみずほ銀行)総会屋事件や山一証券破たんなどをスクープ。東京本社編集委員や編集局運動部長を経て04年読売巨人軍球団代表に就任。球団代表時代にプロ野球界に育成選手制度を取り入れた。ナベツネを告発したこと、11年11月に球団代表を解任される。

読売新聞グループのドン、ナベツネを真つ向から批判し、巨人軍球団代表を2011年11月に解任された清武英利(62)さんは、読売新聞社会部時代、敏腕記者として活躍した。その清武さんに、番犬の役割が薄れ、時の政府に吠えなくなった大新聞など活字メディア衰退の原因などについて語ってもらった。

「大手新聞を筆頭とした活字メディアの現状をどう見えますか。記者も紙面も怒らなくなっている。原発、TPP、消費税増税などの問題で異論なくことが進んでいて、政府側に押し切られている。それでいながら市井の小さな声も疑惑もあまり取り上げていない。昨年8月に山の上ホテルの元支配人が「解任は不当」として提訴した。社長の税金の使い方がおかしいと役員会で内部告発して解任され、ホテルを追われた。朝日が報じただけ。僕はその元支配人に「頑張ってください」

「記者よ、常識を疑え」

惨憺たる活字ジャーナリズムの衰退

「さ」と手紙を差し上げた。別に連帯しようと思っただけです。記者は怠慢になる。記者クラブに寄りかかり、クラブの弊害が強まる。そのうろたえ小さな声を拾い疑惑を衝くというところをしていない。これは恐ろしいことだ。

「疑惑を衝けなくなつた活字ジャーナリズムの衰退原因は何か。僕は長らく国税庁を担当していた。警察や地検とは違う見方でお金を切り口に企業や個人の側面を当てる役所です。問題が少なくなったとは

をしたら、学生に自分が勤める会社の不正を知ったらどうするかを尋ねた。内部告発するかと答えたのは2割以下でした。組織の一員として上司に相談する「じつくり考える」が多かった。けしからんと思うのはごく一部、ほとんどは社会の落伍者になることを恐れる。負け組になりたくない。だから組織内のルールを守る。常識にしば

る人が実は外務省幹部と協議し、入国を許可したと教えてくれた。その後も取材を続け認める人が出てきた。入国した脱北者のほとんどは日本人妻でした。中国からの強制送還やタイ経由で入ってきた。亡命や難民でもないので、日本人と確認すると入国に問題はありませんが。書いた記事は「脱北日本人妻 極秘に帰国」と大見出しが付けられ、一面でした。この記事以降、脱北者が入国していることを否定する人はいない。今では多分、男性も含め百人はいる。こつた当局が認めないことを掘り下げる話はいっぱいあるはず。取材の過程で社内に支援してくれる人は少ない。嫉妬もあるからね。孤立するが、でも記者ならそこを突破してもらいたい。

40歳手前の中堅になると、出世が頭の中にちらつく。うまく行けばあそこポジションまでいけそうと考えるといふ子になつてしまふ。上司も部下の行動にブレーキをかける。しかし、記者を志したのなら出世欲を捨てて志に心を振り向ける。記者は記者のまま進む。広報部に転じたい、管理職になりたいという記者はすでに記者ではない。

「来月号に続く」聞き手 橋詰雅博(フリーライター・元「日刊ゲンダイ」記者)

橋下発言を徹底的にたたこう

橋下個人の問題にせず本質論議を

橋下発言は性別を超えた、人間の尊厳を傷つけたもの。あまりの無知、見識のなさに言葉もないが、これは橋下のような人間を市長と仰ぐ状況の中から生まれたものである。橋下を辞任させることも、「慰安婦を必要とする」と言われている男性も自らの問題としてはっきりと抗議の声を上げて欲しい。橋下はその後の抗議に

神奈川支部が「出前講座」

横須賀市で第一回開く

神奈川支部は独自のジャーナリズム講座を開くよう準備を進め、また県内の団体の要望に従って、その地元で開催する「出前講座」を企画し呼びかけている。その呼びかけに応えた21世紀の横須賀を考える懇談会(横須賀革新懇)主催の集いが、5月12日午後横須賀市産業交流プラザ研修室で開かれた。

緊急ミニシンポ

JCJミニシンポ《もつと知りたい・そこが知りたい》第21回は「自民党憲法草案、ちゃんと知ろう」と題して5月29日に緊急開催する。

この憲法草案はひどいものだという話は聞いていても、具体的にどういう内容をあまり知らない

「致」されて慰みものとなる必要はない。本来「納得」で売春をする女性を存在させてはならない。買う男性も存在させなければならない。もちろんレイプなど、とんでもない。何故なのか、どう考えれば、どうすればそれが可能になるのかを、しっかりと論議しないと、またいつか別の橋下(ほど)ヒドクはないかもしれないが)が現れるのではないかと懸念する。昔なら許せたと、という余地を与えてはいけない。当時はそう

知られていない情報を挙げながら、全国紙など大手マスコミの沖繩報道のひどさについて、続いて清水雅彦支部事務局長が写真の見方、撮り方について講演した。阿部氏は、読売新聞の沖繩での販売部数が700部に過ぎないなど余り

「明日の自由を守る若手弁護士会・共同代表」問い合わせ・申し込み 03-3291-647

「壊憲にどう対抗するか」 03-3208-5863

03-3208-5863

元巨人軍球団代表清武英利氏インタビュー